

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 25 日現在

機関番号：64401

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2012～2013

課題番号：24820022

研究課題名(和文)ベトナム・ハノイにおける都市民衆の相互扶助に関する人類学的研究

研究課題名(英文)Anthropological Studies of Mutual Help of Urban Peopole in Hanoi, Vietnam

研究代表者

長坂 康代(NAGASAKA, YASUYO)

国立民族学博物館・民族社会研究部・外来研究員

研究者番号：00639099

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円、(間接経費) 540,000円

研究成果の概要(和文)：ベトナムの首都ハノイで、同郷会の活動や母村の祭りに参加して、都市と村の相互扶助の関係を確認した。この数年、同郷会が運営する施設について、同郷会と母村の長老たちと意見の相違があったが、歩み寄りがみられた。同郷会の総会では、民衆による組織体制づくりに立ち会うことができた。

また、ハノイの市場(いちば)での出稼ぎ労働者のコミュニティネットワークについて調査した。経済格差や地域格差を超えた、商業をめぐる相互扶助や、出稼ぎ労働者同士の都市生活の支え合い、ハノイの都市経済と宗教の緊密性が明らかになりつつある。

研究成果の概要(英文)：I recognized relationship of mutual help between urban society and village by participating in activities of the home village association and festival of home village in Hanoi, capital of Vietnam. I observed the compromised about the problem of initiative that home village association should have between home village association and the aged of home village in spite of different opinion. At the general meeting of home village association in Hanoi, I could participate in organizing of home village as sociation by electing the new president.

I researched community network of workers coming from village in the market of Hanoi. In this analysis, the mutual help in commercial activities, mutual support of workers coming from village and strong relationship between urban economy and religion in Hanoi is being made clear.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文化人類学・民俗学

キーワード：都市人類学 経済人類学 民衆文化 ベトナム社会主義共和国 相互扶助 都市 村落関係 同郷会 出稼ぎ労働者

1. 研究開始当初の背景

日本におけるベトナム北部の研究は、歴史学の観点による村落研究や、中・近世史研究を中心とした歴史研究が主であり、その層は大変重厚である。人類学においては、民間信仰を中心とした村落の社会人類学的研究や、農村の社会構造の変化の研究がおこなわれてきた。

ただし、都市の研究となるときわめて限られる。ハノイの旧市街研究に関しては、都市工学や都市建築史などが多く、都市の人類学においては、ポストカード売りの青少年たちの生活実態を描いた研究や、ハノイの路地生活を描いたエッセーなど数点を数えるのみであった。

ベトナムにおける都市人類学の研究は、近年では、2008年に、ベトナム民族学博物館による「博物館と都市人類学」が開催され、その報告書が出版されたが、まだ概略的な都市研究に終始しているのが大半である。

ベトナム社会主義共和国の首都ハノイは、政治都市であるため、民衆が主体となる活動が見えにくい。都市であっても、フィールドワーク調査は困難である。民衆組織・同郷会については、2011年にベトナム初の生活誌的な都市人類学的研究をまとめて公表したが、本研究では、それを発展させ、同郷会組織の共同性、同業者間のネットワーク(相互扶助)をさらに追究し、移動者によるネットワーク形成について展開していくことにした。

2. 研究の目的

本研究は、ベトナム社会主義共和国の首都ハノイにおける都市民衆間の相互扶助の生活動態を明らかにすることを目的とする、ベトナム初のストリートの都市人類学的研究である。

旧市街にある、ハビ村出身者により築かれたハンホム通りは、現在は出身村落に関係なく、塗料販売をおこなっている。そこにあるハビ村の祠堂・集会所「ハビ亭」が、塗料販売の店主同士のコミュニティの場となり、商業組合としての機能を果たしている。ハンホム通りの路上茶屋では、「移動者」(出稼ぎの塗料販売員や荷物運搬バイク)がコミュニケーションを図り、ストリートの核となっている。

本研究では、こうした都市ストリートを対象に、社会主義国ベトナム都市における中下層民の社会・経済活動と生活動態に着目し、経済発展に伴い社会変容が進むなかでの、出身村の相違や経済格差を超えた都市民のネットワークと共同性のあり方を解明し、綿密な商業エスノグラフィを描いて、ハノイのストリート人類学を拓くことを目的とする。

3. 研究の方法

ハノイ都市民衆の社会経済について、ハノ

イ市ハンホム通りおよび関連する近隣の村落で、調査計画に基づいた人類学的手法によるフィールドワーク調査を実施した。

より具体的には、以下の調査・研究をおこなった。

在ハノイ・ハビ村同郷会

同郷会をめぐる都市民同士の相互扶助、母村との協力関係

同郷会(都市在住者)と母村(ハビ村)との人・情報・金銭をめぐる交流実態

ハビ亭を中心とした同郷会の活動内容の追跡調査

月2回(旧暦1日・15日)

旧正月の活動

各儀礼

母村の祭りへの参加

都市整備を急ぎ、宗教施設「亭」への管理を強める行政との関係調査

会員の受け入れ状況、役員の対外活動

母村と同協会の関係の追跡調査

(経済発展に伴う社会変動により、母村との関係に変化が生じているため)

ハンホム通りの塗料販売店

塗料販売店や路上茶屋での都市民同士、都市民 出稼ぎ労働者間の相互扶助

ハノイ市ハンホム通りに並ぶ塗料販売店同士の掛け売りの実態

塗料販売店に関わる都市居住者(店主・家族販売員・出稼ぎ雇われ販売員・荷物運搬者たち)の経済格差、地域格差を超えた相互扶助の実態

塗料販売店の販売員である出稼ぎ労働者の出身村での生活と都市生活の往来の実態

諸店舗による従業員の融通、店主の1日の生活構造と販売員の生活構造

荷物運搬バイクタクシーを依頼する店の特定、荷物の運搬先、1日の収入

塗料や化学薬品の仕入れ先圏(中小企業、家庭内工業の個人業)、仕入れ先 ハンホム通り塗料販売店 客へのルートの追跡、仕入れネットワーク、国際的なネットワークの有無

ファミリーヒストリー収集を核にした街の成り立ち調査と生業の変化、ハノイの観光中心地とハンホム通りとの関係

ロンビエン市場(いちば)

市場労働にみる出稼ぎ労働者間の相互扶助

ハノイ市内にある卸売のロンビエン市場(いちば)での出稼ぎ労働者による果物運搬の収入状況

宗教と経済(果物の販売量)の相関関係 出稼ぎ労働者同士による都市生活を送る上での相互扶助の実態

果物販売の同業者間、小売業者、卸会

社との取引関係の掛売り

市場内での天秤やリヤカーによる果物運搬者(出稼ぎ労働者)に依頼する店の特定、1日の収入

小売店まで果物を運搬するバイクタクシーを依頼する店の特定、荷物の運搬先、1日の収入、バイクタクシーになるための情報網、市場での荷物運搬バイクタクシーの実態

出稼ぎ労働者の生活実態と労働者間の相互扶助機能

果物の仕入れ圏とその流通ネットワーク

このほか、研究当初の予定になかったが、キリスト教との比較も調査に入れた。

キリスト教の団体

信仰の形態、相互扶助の比較

キリスト教の教会での礼拝

経済的困窮者への支援活動

4. 研究成果

在ハノイ・ハビ村同郷会

月2回の同郷会の活動のほか、ハビ村での春と秋の祭りに参加して、ハビ村とハンホーム通り・ハビ亭を拠点とする同郷会の相互扶助の関係を確認した。

同郷会の役員が中心となってハビ亭を運営しているが、2012年度の調査では、ハンホーム通りの住民で同郷会の非会員が、ハビ亭で民間信仰をおこなったとき、参与観察する機会を得た。このときの儀礼では、その非会員が中心となって儀礼の準備や手配をした。このように、同郷会が親密性を保ちながらも、非会員を受け入れて、ハビ亭が開かれた公共性をもつ空間となっていることについては、論文で公表した。

行政の介入によって強制的に改修を求められたハビ亭の敷地をめぐる民衆側の抵抗と自プランの実現をめぐる、この数年間、同郷会と母村・ハビ村の高齢者会との意見の相違が続いていた。年2回のハビ村の祭りで、同郷会は説明を重ねて、村の理解を得る努力をしてきた。2013年度の調査で、双方による歩み寄りを確認することができた。

ほかにも、ハビ亭で開かれた同郷会の臨時総会にも参加した。ここでは、会員が多数集まって、同郷会の会長の選出をするという、民衆による組織体制づくりに立ち会うことができ、生活動態への深みある調査になった。この都市村落関係と同郷会の動向に関しては、今後、論文として公表する予定である。

ハンホーム通りの塗料販売店

ハノイ市ハンホーム通りに並ぶ塗料販売店同士による掛け売りや情報の共有、共存、

店主・家族販売員・出稼ぎ雇われ販売員・荷物運搬者の経済格差、地域格差を超えた相互扶助の実態が明らかになりつつある。

路上茶屋における相互扶助に関しては、ロンビエン市場での茶屋も含めて、論文として発表した。

ロンビエン市場

村落から都市をみるかたちで、出稼ぎ労働者のコミュニティネットワークについて調査研究した。

ロンビエン市場では、市場近くのバラックで出稼ぎ労働者とともに寝泊まりして生活を共にしたことから、出稼ぎ労働者同士が都市生活を支え合う実態が明らかになりつつある。

また、果物を市場から路上に運搬するセーダーイ(リヤカー引き)となって労働に従事して調査を遂行したことにより、その果物の運搬量から、ハノイの都市経済と宗教の緊密性も明らかになりつつある。

このほか、都市で築いたネットワークが村落で継続される事例にも遭遇したので、今後も調査を継続していきたい。

キリスト教の団体

ハノイでは、キリスト教の教会での礼拝に参列して、参与観察する機会を得た。

さらに、同教会の民衆有志が資金を出し合って年1回おこなわれる、ハナム省の山村にある某隔離病棟での人道支援活動に同行して、調査をする機会も得た。

これによって、同郷会が実質的に運営する宗教施設・ハビ亭で祀られる、祖先崇拜との関わりが深い道教との相違も明らかになった。比較対象として意義ある調査を遂行することができた。

人道支援に関しては、本研究で調査をおこなった「相互扶助」との比較も可能である。これらに関しては、今後調査を継続して、さらに比較考察を深めていきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2件)

長坂康代「ベトナム北部の茶文化」『ヒマラヤ学誌』第15号、2014年3月、京都大学ヒマラヤ研究会、200-215頁、査読有

長坂康代「高齢者を周縁化させない大須コミュニティの取り組み 若者・外国人の間で自然体生きる高齢者たち」『愛知大学一般教育論集』第46号、2014年3月、愛知大学一般教育研究室、37-48頁、査読無

〔学会発表〕(計 2件)

長坂康代「ベトナム・ハノイの都市民衆による互助と協力 ハンホーム通り「ハビ亭」をめ

ぐる公共圏の構築について」2013年1月26日、東南アジア学会関東例会、東京外国語大学・本郷サテライト5階セミナースペース
長坂康代「ベトナム北部の茶と米食文化 首都ハノイを中心として」2013年3月30日、第24回雲南懇話会、JICA 研究所（旧国際協力総合研修所）国際会議場

〔図書〕(計 1件)

長坂康代「民衆が創出する都市の親密性と公共性 ベトナム・ハノイの宗教施設「ハビ亭」と同郷会」、黄縉編『往還する親密性と公共性 東南アジアの宗教・社会組織にみるアイデンティティと生存』2014年1月、京都大学学術出版会、123 - 162 頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

長坂 康代 (NAGASAKA, Yasuyo)

国立民族学博物館・民族社会研究部・研究員

研究者番号：00639099